

アメリカ的クルマ文化を楽しむBi-Monthly Magazine・クルージン

# Cruisin'

特別付録/Cruisin'オリジナル・カレンダー

8

創刊月2003年12月  
August 2005 Vol.037  
Cruisin'編集部 東京都目黒区  
電話03-3463-1111



'60年代の伝説を現代に伝える究極のHOT ROD

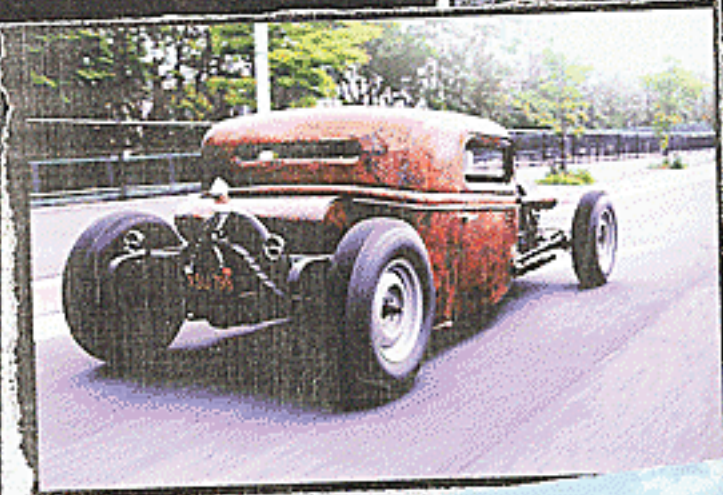
## Mooneyes Dragster II



### Sinners

Chopper Town  
に生きる男たち

19th MOONEYES STREET CAR NATIONALS  
STREET CAR NATIONALS GO! SUZUKA CIRCUIT



### Viva Las Vegas

シネマ・カーショー



THE MAGAZINE OF  
CUSTOM CULTURE AUTHORITY





*Chopper Parking Only*

# SINNERS

## SINNERS……Chopper Townに生きる男たち

TVメディアの力により、かつてないほどに莫大な金が動く現在のアメリカのチョッパーシーン……。その世界にあえて背を向け、今も独自のスタイルを貫く男たちがいる。……SINNERS。「ただのアホな集団さ」と言い切る、彼らの群像。

渡辺まこと (HARDCORE CHOPPER) = 文 | 挿 by MAICHO WATANABE | ZAP = 写真 | photographs by ZAP | \* Special Thanks to SINNERS | <http://www.choppertown.net/>

**ケ**ーブルTVをはじめとするメディアの力によって、これまでにないほどに隆盛を極めていように見える、現在のアメリカのチョッパー・シーン……。カスタム・ビルダーたちが毎週のようにブラウン管に登場し、あたかもスターのように振る舞うこの状況は、'80年代に一度は廃れた「チョッパー」を一般市民にまで浸透させ、その地位を復権させるまでに至っている。

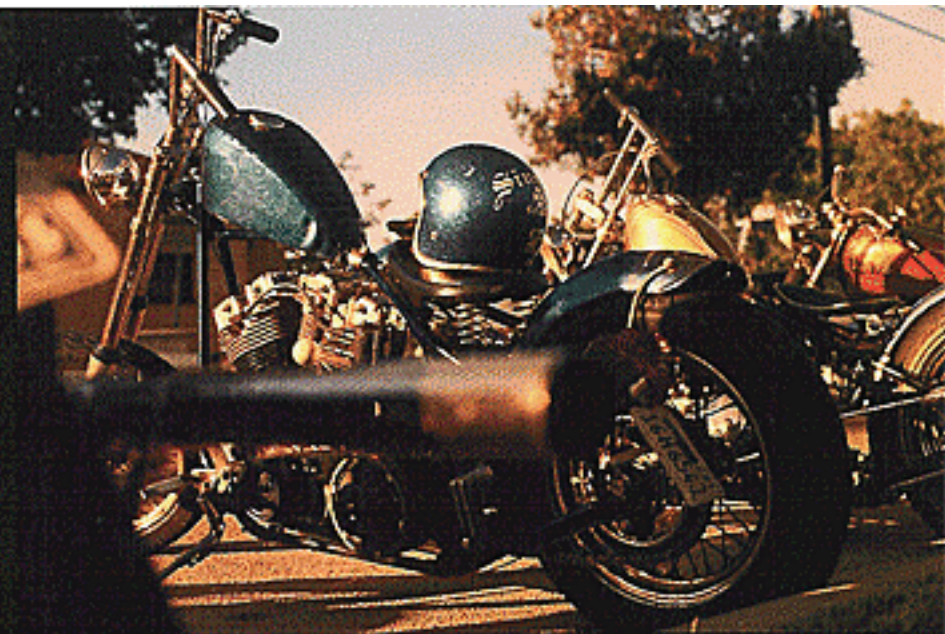
この流れによって最新のカスタムやプロダクツが次々と生み出され、業界に莫大な金を生む……。確にかつての「チョッパー冬の時代」を知る者たちにとって、今は喜ぶべき状況なのだろう。

しかし、この流れに対して抗う姿勢を貫くチョッパー乗りたちがいるというのも、また事実だ。そもそもチョッパーの起源を紐解けば「第二次大

戦時代、ヨーロッパからの帰還兵たちが現地でみた英車をモチーフにハーレーをカスタムし始めた」とあるとか「盗んだバイクを誰のものか分からなくするため」と云われていることから分かっており、個人、個人がガレージで油にまみれ、造りあげる極めてパーソナルなものだ。もちろん、そうした暮らしを未だ貫く男たちの中には、高価なパーツを集め、それをアッセンブリーで組み上げる「金のあるなしが完成度を左右する現在のチョッパー」に興を船える者も多にいる。

カリフォルニアに住むホットロッダーやチョッパー乗りたちが中心となり、結成された「SINNERS」というクラブも、まさに熱病に冒されたかのような現在のシーンに背を向け、対峙している男たちである。





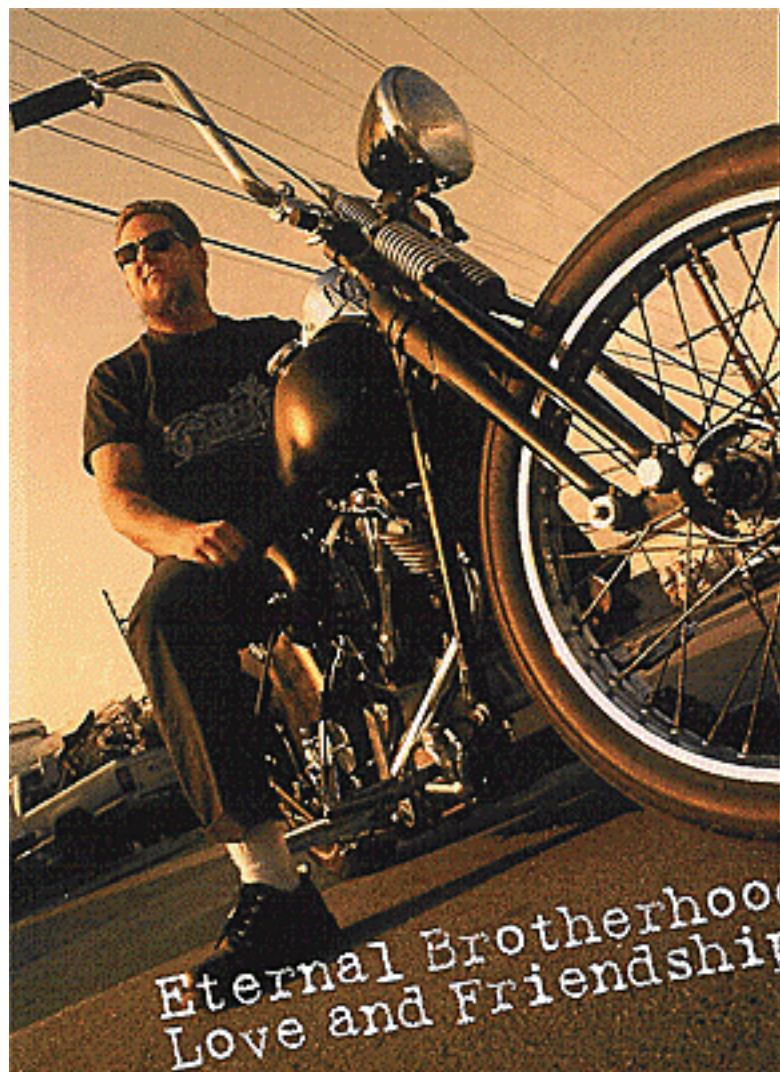
Love and Friendship  
Until Death Crushes.



そもそもこのクラブの「オリジナル」は、'60年代にカリフォルニアのバーバンクで結成されたもので、現在のSINNERSはそれとはまた違う流れから生まれたもの。後のページにも登場するメンバーである「ダイヤモンド・モーターサイクル」というショップを営むRICOやダンパー・ダンが中心となって「気の合う連中」が集まったことが、始まりだという。

「もともとは3~4人くらいの仲間がバイクで走り出したのが始まりなんだ。それがスワップミートとかに行くたびにトモダチが増え、今のようになっている。そんな感じで知り合った人の中に、'60年代にバーバンクでオリジナルのSINNERSをやっていたというオッサンがいたんだ。彼が俺の誕生日に、記念のトロフィーをくれ

たことが今のSINNERS結成の直接のキッカケかな。その時にダンパー・ダンや俺の仲間たちと一緒に猫のTシャツを作ったんだけど、そのノリのまま今まで続いているんだ。俺たちは別にオーガナイズされたクラブじゃない。最初はただ単に猫のTシャツを着たトモダチ連中の集まりさ。ただそんな格好をしているから、よくイベントとかでは正式なクラブと間違われたぜ。シフターズの奴らからも「お前らはクラブじゃないのか？」なんて質問されたり(笑)。そういう問いかけには「俺たちはただのアホな集団だよ」なんて答えたり。まあ、そんなノリから「だったらクラブにしちまえ」ってコトになったのが1990年。今でも気の合うトモダチしかSINNERSになることはできないんだよ」とRICO。



Eternal Brotherhood  
Love and Friendship.



*Chopper Dicks Only*  
**Sinners**



「つき合った月日の長さや深さ、それこそが仲間になる最低限の条件」

SINNERSの男たちの人間としての付き合いは、誰もが平等でブレイズもプロスペクトもない。それゆえに厳密なルールは何もないと言う。ただ唯一の暗黙の掟としてあるのが「自分の乗るチョッパーやホットロッドは、自分の手で創り上げる」ということ。メンバーの中にはカスタム業界では名を知られた者やアーティスト、そしてブルーカラーのワーキングクラスで働く者などさまざまな人種がいるが、やはり何より「好きなホットロッドやチョッパーに対する愛」が彼らの共通の言語となっている。お互いがスワップミートや友達同士のディールで手に入れたパーツを持ち寄り、好きず

きにチョッパーを創り上げる……この行為は、現在のアメリカのシーンとはまさに対極、である。

その彼らを題材に現在、Scott DiLallaとZack Collmanという男たちがまったくの自主制作という形で“Chopper Town”というドキュメンタリー映画を作ったのだが、これにしても巨大メディアによって制作されたTV番組とは、まったく対極のスタンスで生み出されたものだ。

TVの電波に乗るのか、劇場で公開されるのか……この6月に完成したばかりというこのフィルムは、未だ一般的に公開する方法が決定していないそうなのだが、彼らはまさに自分たちの手でソニーのスタジオを押さえ、プレミアム試写会を開催してしまった。この